

アメリカ大陸の先住民族会議 - 東京報告会 -

「1500 人が集った会議で先住民族が世界に向けて訴えたこと」

資料集



開催日時: 2007年4月21日(土) 午後2時~4時半

報告者: 小林致広 (メキシコ先住民運動連帯関西グループ、神戸市外国語大学
教員)

石川智子(グアテマラ在住)

プログラム

2:00 司会開会

ビデオ上映「特集 先住民族国際会議 権利回復への訴え」

(NHK衛星第1「きょうの世界」2007/4/5放映)

2:25 報告

石川智子

小林致広

3:25 休憩

3:35 質疑応答

4:30 終了

<共催>

開発と権利のための行動センター / 市民外交センター /
先住民族の権利ネットワーク / 先住民族の10年市民連絡会 /
ナマケモノ倶楽部 / 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク /
反差別国際運動 (IMADR) グアテマラプロジェクト

第三回 先住民族大陸会議とは？

2007年3月26日～30日、中米のグアテマラで開催された先住民族大陸会議は正式には「第三回 Abya Yala (アビヤ・ヤラ) 大陸先住民族サミット: III. Cumbre Continental de Pueblos y Nacionalidades Indígenas del Abya Yala」と名称されています。ヨーロッパからの侵略に起源を持つ「アメリカ」や「新大陸」、「ラテンアメリカ」を使わずに、自分たちの生きる大陸の名称として、パナマの先住民族の言語で“成熟した大地”を指す Abya Yala という言葉が先住民族運動の中で使われています。(今回の広報ではわかりやすくするために、「アメリカ大陸」等の表現を用いています。ここでは「先住民族大陸会議」と略称します。)

またこの先住民族大陸会議は1992年にグアテマラで開催された「抵抗の500年大陸会議」の流れを汲むものであり、直接的には2000年10月のメキシコでの第一回先住民族大陸会議、2004年7月のエクアドルでの第二回先住民族大陸会議から引き継がれてきたものです。

そして、この度の第三回目の会議は、スペイン人の侵略で破壊されたマヤ・カクチケル民族の都市であり、現在もマヤの人々にとっての聖地であるイシムチェで開催され、南から北まで大陸各地の先住民族運動のリーダーが参加しました。

強まる経済のグローバル化、自由貿易協定などが先住民族に強い影響を与えつつある一方で、ボリビアにおいて先住民族出身の大統領が生まれるなど時代は大きな変化を迎えつつあります。こうした中で先住民族運動のリーダーたちが一堂に会し、先住民族が抱える問題を共有するとともに、この大陸のあり方を新たに構想するための議論が繰り広げられました。「先住民族が真の力を持つために、先住民族の権利が承認され、またその権利が行使できるように貢献すること」を目指して。

日本とのつながり

この会議の実施に向けて、グアテマラで中心になって動いていたのは、日本国内の諸団体と協力関係を続け、数多くのメンバーも来日してきた CONIC (グアテマラ先住民族・農民全国調整委員会) や CONAVIGUA (連れあいを奪われた女性たちの会)、そして CONAVIGUA の青年組織である MOJOMAYAS などです。また日本からも、これまで中南米への支援活動また世界各地の先住民族運動との連帯運動を続けてきた様々な団体が、会議の実施のための資金援助、広報などに協力してきました。

目次

第三回先住民族大陸会議とは？	1
第三回先住民族大陸会議に向けて	2
第三回先住民族大陸会議全体会・分科会テーマ	3
過去二回の会議の成果	4
第三回アビヤ・ヤラ先住民族大陸会議イシムチェ宣言	5
土地と領域(テリトリー)分科会のまとめ	7
母なる自然分科会のまとめ	8
女性に関する要求と表明	8
その他	10

第三回先住民族大陸会議に向けて

首都から西へ 87 キロのところのところに位置するグアテマラのテクパンはカクチケル王国の首都であり、ここで第三回先住民族大陸会議が開催されます。その舞台となる「偉大なるイシムチェ」は、ペドロ・アルバラードに率いられたスペインの侵略者によって焼きはらわれた都市です。先住民族に対して黄金を求め、その欲望が満たされなかったからと焼き払われたのです。その当時のすさまじい弾圧、土地の略奪、そして 1980 年代の弾圧にもかかわらず、マヤ、シンカ、ガリフナの諸民族は今日マヤ・ワキップ・ケフやその他の組織に集い、抵抗と闘争の歴史と経験を共有するために、今こうして大陸の先住民族の代表を迎え入れようとしています。

私たちの領域（テリトリー）に対する侵略とともに開始された、500 年以上にわたる私たちの抵抗と闘争の歴史は今も続き、大陸のほとんどの地域で今日に至るまで解決されることなく続いています。この第三回先住民族大陸会議に集い、私たちの、共同体の、そして民族の、生活・文化・習慣に直接的にそして激しい影響を与えつつある植民地主義、抑圧的な政権、自由貿易協定の締結、経済のグローバル化などの問題を取り上げていきます。

この大陸はグローバル化に対する、アメリカ自由貿易地域（ALCA）に対する大きな闘争の舞台となっています。自由貿易を進める政策は先住民族に大きな影響を与えています。米国に主導される ALCA は、米国の領域的拡大に他ならず、私たちの自然資源、生物多様性、文化的豊かさを略奪するものでしかありません。先住民族の連合による闘争と抵抗のみが ALCA のようなプロジェクトを、WTO が進めつつあるような農業と食糧を他の商品と同じように扱おうとする動きを敗北させることができるのです。（中略）

大陸における開発のモデルは先住民族の論理とは対立するものです。私たちにとって自然とは生活の一部であり、それともに生き、そしてそれを尊重するものなのです。しかし国家が押しつけるモデルは資本蓄積のための略奪と過剰な開発なのです。国家は未来へのビジョンを持っていません。民衆の意向に逆らって、多国籍企業に対して自然資源の利用権を切り売りしているのです。このことが大きな対立を引き起こしているのです。人々の命と未来だけではなく、自然の、そして地球の未来をもてあそんでいるのです。

先住民族の尊厳を回復し、国際的な融資機関の命令への従属から逃れるためには、先住民族としての闘争と抵抗を続けなければなりません。そのためにはロビーイングも組織強化も、また情報の提供も必要です。こうしたことを通じてのみ、構造的な変革に対する揺らぎない信念のもとで先住民族が積極的に参加することが可能になるのです。またそうしたことが先住民族が中・長期的に権利を行使する力につながり、またその全的な承認につながるのです。（中略）

先住民族は征服もされていなければ、敗北したわけでもありません。私たち先住民族は尊厳ある生活を求めているだけなのです。お互いに人間としての尊重し、私たちの回りのすべてのものを尊重し、ともに生きていくことを願っているのです。山々の心から発せられる声に耳を傾ける必要があるのです。

（*America Latina en Movimiento* Vol. 418, ALAI, 2007, Marzo に掲載されたグアテマラの Juan Tieny の文章の一部抜粋）

第三回先住民族大陸会議 全体会・分科会テーマ

<全体会パネルテーマ>

- 1) アメリカ大陸の先住民族と国民国家
- 2) 領域、自然資源、先住民族
- 3) 民主主義 国民国家と先住民族政府

<分科会テーマ>

- 1) 土地と領域
- 2) 母なる自然
- 3) 自治と自決
- 4) 多様性と多民族性及び統合的開発
- 5) 知識と知的所有権
- 6) アイデンティティーと世界観
- 7) 連係のための戦略
- 8) 女性の組織化と政治参加
- 9) 青少年
- 10) 二国間組織、多国間組織（米州機構、国際連合、世界貿易機関）
- 11) 国民国家と先住民族政府
- 12) 先住民族の領域における新自由主義的グローバル化の影響と軍事化
- 13) コミュニケーションと先住民族
- 14) 先住民族の司法システムと司法へのアクセス
- 15) グローバリゼーションと民衆のオルタナティブ経済

過去二回の会議の成果

< 第一回大陸会議（2000年10月25-28日、メキシコ・テオティワカン）宣言要旨 >

以下を再確認する

- 固有の文化における先祖伝来の精神的価値、言語、歴史に導かれ、今後も先住民族として存在し続けること。
- 固有の領域とその中の生物多様性の網が、奪うことのできない権利・義務を形成していること。
- 先住民族は自決権を有すること。

以下を要求する

- 各国政府は国連先住民族権利宣言を支持すること。
- 米州機構の米州先住民族権利宣言の起草を再開すること。
- ILO 第 169 号条約を未批准の国は批准すること。
- 各国政府は憲法において先住民族の存在と権利を認めること。

< 第二回大陸会議（2004年7月21-25日、エクアドル・キトー）宣言要旨 >

以下を決議する

- 新自由主義的グローバル化に対抗するため、先住民族のネットワークと交流のための恒久的なスペースを創出すること。
- 他の社会セクターとの連携を確立すること。
- 土地の防衛・自治の行使を理由に不当に拘束されている先住民族のリーダーらの無条件釈放を要求すること。
- 各国政府に先住民族の遺伝子・文化資源の無条件返還、先住民族の領域内の国境を越えた自由な移動、土地・領域の収奪により影響を受けた先住民族への賠償・原状回復を求めること。
- 各国政府は自然資源の搾取に起因する紛争を解決すること。
- CONAIE（エクアドル先住民族連合）、ベネズエラの民衆及びチャベス大統領、キューバ民衆との連帯。

以下を再確認する

- 先住民族が居住する土地は、不可譲、不可侵であること。
- 先住民族は自然と調和しながら民族としての存続を可能にする固有のモデルを有すること。
- 自決権の行使を可能にする自治の空間を創出するのに、法的承認は必要としないこと。

第三回アピヤ・ヤラ先住民族大陸会議 「抵抗から権利の行使へ」 イシムチェ宣言

われわれ、この大陸の先住民族の子孫はグアテマラ、イシムチェに集い、2007年3月26日から30日（注1）にかけて、第三回大陸会議を開催した。次のように宣言する。

- テオティワカン宣言（2000年メキシコ）、そしてキトー宣言（2004年エクアドル）を再確認するものである。われわれの何千年にもわたる原則、補完性、相互性、二元性、そしてわれわれの領域への権利、母なる自然、自治そして先住民族の自決のための闘争を承認するものである。そしてここに大陸におけるパチャクティク（Pachacutik：回帰）の時代の再来を宣言する。5200年にわたるサイクル Oxlajuj Baq'tun が終わり、新しい Baq'tun の扉に近づきつつあり、われわれはアピヤ・ヤラを「生命に満ちあふれた大地」にするための歩みを進めているのである。

- われわれは何世紀にもわたる植民地の時代を、そして今日はグローバリゼーションと呼ばれる新自由主義的政策が押しつけられる中に生き続けている。われわれの領域からの排除と略奪は続き、先住民族のすべてのスペースと生きるための手段は奪われ続けているのである。母なる自然は貶められ、貧困と移民が続いている。それは多国籍企業と政府が共に、先住民族の主権に対して組織的に介入していることによって生み出されている。

われわれは新しい時代の中で必要とされる挑戦にむけて準備を進めなければならない。そこで次のように宣言する。

- この大陸そして世界の先住民族の間での連携、また先住民族と社会運動との連携のプロセスを強固なものとし、新自由主義的政策とすべての形の抑圧に立ち向かっていくものであること。

- 多国籍企業による虐殺が免責されていることで、大陸の先住民族が領域を略奪され続け、絶滅に追い込まれていること、国連が「先住民族の権利宣言」の実現に消極的であること、また「世界人権宣言」の完全な履行が保障されていないことに対する責任は、諸政府にあること。

- われわれが、領域と母なる自然からの共有の富に対して、先祖伝来の歴史的な権利を有することを承認するとともに、われわれの命をかけても、その権利が不可譲、不可侵であり、差し押さえの対象ともなることも、放棄することもできないことを再確認する。

- 先住民族代表の直接の参加に基づく立憲議会による、国民国家の再構築、多民族国家の構築と異文化共生社会（sociedades interculturales）へ向けたプロセスを強化すること。

- 国民国家の法的枠組みで承認されていなくとも、先住民族の自治と自決に向けた取り組みを進めること。

- 先住民族の主権を侵害する自由貿易協定を拒否するとともに、新しい通商協定締結の動きに監視を続けること。

- 食糧主権を守っていくこと、反遺伝子組み換え闘争への決意を再確認するとともに、世界の諸民族に対してわれわれの未来を確実にするためにこの運動への参加を呼びかけること。

- コミュニケーションの民主化のため、また先住民族そして異文化共生の促進のための特別な政策の施行を求める闘争を進めること。

- 援助をばらまいて先住民族コミュニティに浸透し、自治的かつ正統な組織の分断を狙う、米州開発銀行、世界銀行などの政策に対して注意を呼びかけること。

先住民族の「よい生活」(注2)のために以下の点に合意するものである。

- 先住民族の領域における、収奪的産業のための鉱物、石油、森林、ガス、水などの利用権認可を中止することを国際的な融資機関や政府に対して要求していくこと。

- 米国ブッシュ政権による、メキシコ国境沿いの壁建設にみられるような排除的な政策、アビヤ・ヤラ先住民族の母なる自然からの共有の富を略取しようとする政策、そして拡張主義、好戦主義的計画と行動など、を強く非難すること。

- 先住民族の権利を認めない、特に ILO 第 169 号条約を批准しない、あるいはその履行を保障しない、国民国家の政府の許し難い態度を強く非難すること。

- 新自由主義政府によって行われているテロリズムと見せかけ民主主義を強く非難するものである。これは先住民族の領域の軍事化を進め、すべてのアビヤ・ヤラにおける先住民族の闘争や社会運動を「犯罪化」するものとなっている。

「抵抗から正統な権利を行使する力に向って」という言葉を実践し、夢を実現するために

アビヤ・ヤラ先住民族大陸調整機関を設置する。そして、これを継続的な関係と交流のスペースとして、先住民族の経験と提案を共有して、共に新自由主義的なグローバリゼーションに対抗して行く。「よい生活」のために、先住民族として決定的な解放のための闘争を、母なる自然、領域、水、そして生きていくためのすべての自然の財産を守る闘争を続けてゆく。

このためのプロセスとして次の行動を計画する。

- 女性、子ども、若者などの参加による先住民族の闘争と組織化プロセスの強化
- アビヤ・ヤラ先住民族女性会議とアビヤ・ヤラ先住民族青少年会議の開催を呼びかける
- 資本主義によって引きおこされている災害から母なる自然を守り、地球温暖化の問題を訴える先住民族大陸行進を 2007 年 10 月 12 日(注3)に実施するように呼びかける
- 先住民族の権利を擁護し保障するための先住民族による外交活動を強化する
- われわれの兄弟であるエボ・モラーレス・アイマ、ボリビア大統領のノーベル平和賞候補を支持する
- コカの葉を処罰の対象から外すことを要求する(注4)

**「われわれの過去を夢み、われわれの未来を思い出そう」
イシムチェ Iximche'、グアテマラ 2007 年 3 月 30 日**

注1: 3月26日はマヤ暦で「13の力を持つ夜明けの精」、3月30日は「4つの力を持つ鹿の精」の日

注2: 「よい生活(vivir bien)」「人や生き物と自然、全てが均衡を保って生きていく状態」

注3: 10月12日はコロンブスによるアメリカ大陸「発見」の日であるが、先住民族運動はこの日を「先住民族の日」と捉えなおしている

注4: コカの葉はアンデス地域では伝統的に薬草として用いられてきた

(翻訳: 青西靖夫・新川志保子)

土地と領域(テリトリー)に関する分科会まとめ

<結論>

- ・ 人間は常に自然の一部であり、また領域はすべてを含むものである。地理的な領域だけではなく、そこにある川、木々、動植物など、大地の上にあるすべてのものを含み、また大地の下に存在するものも含んでいる。
- ・ われわれの土地に侵略者がやってきて以来、搾取、疎外、抑圧、死、虐殺の中を生きてきた。しかしわれわれは抵抗を続け来たのである。われわれの土地と領域を守るための戦いを続けてきたのである。
- ・ 帝国主義は常にわれわれの資源を略奪しようとしてきたし、われわれをいくたびとなく土地から排除してきたのである。歴史の政治的な転機の度に、われわれの土地そして領域を損ない、生命を傷つけてきたのである。それは現在のヤンキー帝国主義につながっている。
- ・ われわれのアビヤ・ヤラにおいて、豊かな土地を我がものにしてきたのは元軍人であり、元政府役人であり、麻薬関係者である。
- ・ われわれ、アビヤ・ヤラの先住民族は土地の保護と回復を求めてきた。しかしわれわれは土地なしの運動である。
- ・ 一つの国にとどまることなく、アビヤ・ヤラのレベルに闘争をつなぎあげることが必要である。

<要請>

- ・ ウルグアイ、チリなどにおける ILO 第 169 号条約批准のための闘争支援
- ・ ニカラグア北部大西洋岸自治地域における所有権を獲得するための活動の促進を支援すること。
- ・ ボリビアの立憲議会において、「土地と先住民族コミュニティ」を「土地と領域」に変えるための支援

<その他に語られた内容の抜粋>

- ・ メソアメリカにおいて、われわれはスペインの侵略の間、自分たちの領域から排除され、追われてきた。そのとき以来、われわれは安い労働力として農園で搾取されてきたのである。
- ・ 私たちは土地なしの者たちの土地を求める運動を持っている。それらの者たちと何をしていくか、アイデアを交換していく必要がある。
- ・ 国ごとではなく、アメリカ大陸レベルで結びつくことが必要である。われわれには押しつけられた国境は必要ない。
- ・ 農業フロンティアの拡大を止めるための方策をとることをこの会議が支援すべき。
- ・ コミュニティのレベルからの組織の再強化が必要。
- ・ 私たちの視点からの若者の参加が必要である。
- ・ 法律に関する知識が不足していることが問題である。それで騙されてきたのだ。
- ・ いわれるまで待つのではなく、領域擁護のために組織すべき。それはわれわれのものなのだから。
- ・ 世界的なレベルでの連帯の規範・法の形成が必要である。土地は、集団的な生存のためにあり、搾取や個人的な利益のためにあるのではないという点から働きかける必要がある。

* この部分は次のサイトの情報を整理したものである。

http://movimientos.org/enlacei/cumbre-abyayala/show_text.php?key=9623

母なる自然に関する分科会まとめ

- ・ 母なる自然を回復すること
- ・ 自然の富（los bienes naturales）に関する法律を改正するとともに、それを遵守すること。
- ・ それぞれの国でどのような事態が進んでいるかを把握できるように、適切な研修を行うとともに、先住民族組織を強化すること
- ・ （利用に先立って） 事前にしかるべき協議を行うこと
- ・ ILO 第 169 号条約を適用すること
- ・ 持続的な形で自然の富を利用すること
- ・ 伝統的な保全の手法に関する知識を体系化すること。多くの先祖伝来の知識が記述されていない。
- ・ 先住民族が権利を守るための自治を国家が承認すること
- ・ 土地、領域、聖地を制度化すること。土地への権利は認められても、地面の 2 メートル下はもう権利はなく、国家のものになってしまう。 国家に対して、領域への権利の承認を要求すること（テリトリー及びテリトリー上、また地下にあるもの）
- ・ 多国籍企業の手から土地と領域を回復する
- ・ 青少年が重要な役割を占めている。自然の富の保全者となるべき。

* この部分は次のサイトから、テーマとの関連性の明確ではないものなどを省いて整理したものである。http://movimientos.org/enlacei/cumbre-abyayala/show_text.php3?key=9615

女性に関する要求と表明

「先住民女性の政治参加」分科会の記録

2007 年 3 月 27 日 於イシムチェ
マヤ ク筆（Red Mujeres al Aire）

第三回アメリカ大陸先住民族会議の「先住民女性の政治参加」分科会では、幅広くまた内容の濃い女性たちの声が聞かれた。

この分科会の議長をマリア・ルイサ・クルチチェ、司会をメダルダ・カストロが務め、発表者はエクアドルの ECUARUNARI の中心的リーダーのブランカ・チャンコソ、グアテマラのキチェのリーダーであるアルマ・ロペスだった。

発表のなかでチャンコソは、この分科会にこれほど多くの女性が参加しているのは女性特有の問題を話し合うことへの関心の高さを示しているとする一方、男性の不在を指摘し、「男性が聞く耳持たなければ、どうやって社会を変えたらいいのか」と自問した。

さらに「女性たちはいつも娘、妻、母として（男性に）黙って付き従ってきた。付き従うばかりで、私たちが目に見える存在になることはほとんどなかった」と語った。

同時に、前に出るチャンスを得ても決して母、娘、であることをやめるつもりはないと断言した。

さらに「私たちは隅に追いやられるのではなく声ある者として共に歩みたい」と表明した。また女性たちが自分を定義するとき母とすることにも注意を呼びかけた。これからは教育者として自分たちを認めよう。そしてまた私たちが文化抵抗の中心であったことも認める必要があるとした。

発表者の国の女性たちが行ってきた理論づけの一つとして、「女性とは存在の持続である。つまり死を乗り越えるような普遍的な場を見出すこと、歴史の主体となるということである。女性は、

祖先から続き体の奥深くから湧き出る実在の主体であり、魂のなかのもっとも豊かな感受性を糧とする。実在であり、持続なのだ」と語った。

また社会は女性が人格ある人間であることを忘れてしていると指摘する。人間として自己を実現したいのだ。母や妻であることを放棄したいのではない、だが私たちの知識や知恵を自分たちのためにも使いたい。人間として、踊り、愛し愛されたいのだ。

男女平等については、私たちも同じ条件で参加したいと指摘した。私たちも行政の長や責任者を務めることができる。もし委員会が10人で構成されるならば、男女とも5人ずつで構成されるべきだ。

チャンコソはまた、女性は人々の出会いが密になるべく、常に新しい発想や提案を行っている」と指摘した。

この会合では、私たちが自分たちの提案を立案する機会を失うことがないようにと結んだ。

続いてグアテマラのアルマ・ロペスは女性の政治参加の成果と課題を発表し、この場（イシムチエ）に集う年配女性たちのパワーを称えた。

マヤ女性たちは、政治参加とは何か？組織化して声を上げることが何になるのか？を常に問い続けなければならなかったと主張し、私たちは自分たちが感じることを、自分とは何者で、何を愛し、精神と身体に何が宿っているのかを定義しなおす必要があったと断言した。

ロペスによれば、女性たちは家父長制の下「女性であることとマヤ先住民であることのどちらを優先するのか？」という問いをつきつけられてきた。しかし自らの政治要求を書き出すことで、家父長制が押し付けてきたこの二分法を乗り越えつつある。

ロペスは、女性が参加する場を獲得してくると今度は、「いつ失敗するか」周りが注視しており、先住民として監視されてきたことを強く非難する。私たち女性は「小ざかしく」ずうずうしいでしゃばりな楽観主義者だと言われ、頭のおかしいラディーノかぶれの自由主義者だと非難されてきたのだ。

国家や国際的な場での先住民女性の立場については、私たち先住民女性が物や象徴として扱われてきたことを批判した。私たちのカラフルな衣装など、周りに与えられるものでしか見てもらえないのだ。

またロペスは執行部を組織しようとする、女性たちが先頭に立つのは危険だ、それは漂流船のようなものだとされることを指摘した。女性たちは、時間がないとか、遅くに外出すれば暴行されるかもしれないとか、夫が叱責するかもしれないと不満ばかりをいう、というのだ。貢献しているとはみなしてもらえず、村を分裂させていると非難されるのだ。

発表のなかで、政治参加が意味するものとは違う視点が存在することを明らかにした。それは二つの場であり、一つには共同体や地域その他のレベルでの政治要求に関する女性の組織である。もう一つはマヤもしくは他の先住民女性の政治（公共）行動である。

彼女の発表で重要なことは、自分の経験に即して先住民女性にとって大切な挑戦を共有していることである。

第一に、自分たちの存在、身体に自信と誇りを持つことだと語る。私たちの身体を利用することを許してはいけない。被写体になったり象徴として使われるのを許さないこと。この点で言うと、女性は腰をかがめ小股で音を立てずに歩くよう教育されてきた。

もう一つの共有された挑戦は、所属に対する誇りを持つことだ。回復すべき大切な宇宙観の一つとして、カバウシルを挙げた。複数の視点を持つこと、つまり理念にとどまるのではなく客観的になることである。すなわち前後、上下、左右を見渡すことである。

またこの会議での女性のための場が急ごしらえであったこと、女性に関するテーマをこの会議における横断的な課題とすべきであるという要求があったにもかかわらず、それが実現しなかったことを批判した。

政治参加に関しては、女性の仕事を広げるべきだと語った。自分たちの場にとどまりながら、しかし衛生、土地、経済資源など別の領域にも参加すべきである。私たち女性は参加を望む市民なの

だ。国家は排他的、家父長的、単一文化であるが、私たちはそんな国家のどの部分に位置したいのか知らなくてはならない。

最後に女性の政治参加を語ることは自治を生きることだと締めくくった。つまり他の人に依存するのをやめ、自信を持って主張し、尊厳と私たちの権利、身体のために闘うことができるということだ。独りではなく、私たち自身のパワーで一緒に闘うのだ。

続いて熱い議論が交わされ、会議の最終宣言に盛り込まれる予定のこの分科会での宣言の中身について話し合われた。

さまざまな文化から来ている女性たちは要求に関して意見が一致し、また参加者の帰属に関してより包摂的な用語が使われるべきだと主張し、例えば参加者が胸につけた ID カードが「代表者」の男性形になっていることを批判した。

また最終宣言で平等を求めることをこの分科会として強調したことは、重要な貢献である。当初から女性の参加が少ないとして不平等性が指摘されていたからである。同様にこの点に関して、他の分科会では、女性の発表者がほとんどいないことが確認された。

実際他の分科会（6つのうち5つ）を調べたところ、女性の発表者はロサリナ・トゥユク氏のみであった。

（翻訳：柴田修子）

その他

この会議に向けての先住民族運動リーダーへのインタビュー記事からの抜粋

エクアドルの先住民族運動のリーダー、ウンベルト・チョランゴ

・・・先住民族の領域のさらなる軍事化を許すこともなく、石油や水資源、鉱物資源、生物多様性など自然資源の略奪でもなく、それらを私有財にするのでもなく、福利のための社会を求める動きとともにあることです。新自由主義モデルは計り知れない貧困をもたらしました。その中には世界銀行が進めようとしている水の商品化があります。しかし私たちにとって水は人類の財産なのです。私たちはこの点について立場を明確にする必要があります。自然資源の本来的所有者である先住民族の大半が貧困に苦しんでいる一方で、一握りの人間による自然資源の独占を進めようとする方向には決して同意することはできません。

出典：http://cade.cocolog-nifty.com/ao/2007/03/post_19e0.html
（原文は下記サイトを参照）

ロドルフォ・ポコップ（グアテマラ）先住民族大陸会議のホームページより

自然の非合理的かつ過度な利用を引き起こされつつある。西洋世界は母なる大地を商品と見なし、その結果気候変動を引き起こすこととなったのである・・・また自然の利用は敬意に基づくべきであり、また私たちの子どもたちの未来を保障しうる均衡を探すべきである。

出典：<http://www.iiicumbreabyayala.org/news/2>

共催団体紹介

開発と権利のための行動センター

開発と権利のための行動センターは、中南米における先住民族の権利の尊重と農村開発を目的としてさまざまな活動を行っています。現在は先住民族の自然資源への権利確立のためのプロジェクトをグアテマラで実施中。連絡先：横浜市栄区飯島町 2073 番地 2 B-201 号 青西方
HP: <http://cade.cocolog-nifty.com/ao/> <http://homepage3.nifty.com/CADE/>

市民外交センター

市民外交センターは、先住民族の権利問題に取り組む NGO です。アイヌ民族と沖縄・琉球民族への国連参加支援や、国内での政策提言活動を行っています。また、ラテンアメリカを含む世界各地の先住民族との交流・支援活動も行っていきます。
連絡先：〒132-0033 東京都江戸川区小松川 3-35-1-204
電子メール：peacetax@js2.so-net.ne.jp HP: <http://www005.upp.so-net.ne.jp/peacetax/>

先住民族の権利ネットワーク

「先住民族の権利ネットワーク」は、先住民族の権利、特にアイヌ民族・沖縄民族の日本における先住民族としての認知を広め、権利の獲得をめざして、国連の先住民族の権利システム関連の勉強会や、hp・ml 上での情報の公開・共有を行っています。ネットワークには、アイヌ・沖縄民族の人も、そうでない人もともに参加し、共同作業を行っています。
電子メール：indigenousetnet@hotmail.com
HP: <http://jns.ixla.jp/users/indigenousetnet566/index.html>

先住民族の 10 年市民連絡会

先住民族の 10 年市民連絡会は、アイヌ民族をはじめ国内外の先住民族の現状や権利問題を広く知ってもらうために活動しています。年に数回セミナーや集会を開催しているほか、国内では数少ない先住民族専門の情報誌として、定期的にニュースレターを発行しています。
連絡先：東京都杉並区高円寺南 3-24-10-403 小林方 Tel&Fax:03-5932-9515
電子メール：indy10-Lj@infoseek.jp HP: <http://indy10.at.infoseek.co.jp>

ナマケモノ倶楽部

「スロー」や「GNH」をキーワードに「環境運動+文化運動+エコビジネス運動」を展開している NGO。エクアドルとのフェアトレードやエコツアー、ペットボトルや缶ジュースを飲むかわりに自分の水筒をもつ「ZOONY 運動」、地域通貨「ナマケ」、日常の平和を模索する「9 LOVE」キャンペーンなど、みんなに「ナマケる」ことをすすめています。HP: www.sloth.gr.jp

日本ラテンアメリカ協力ネットワーク

グアテマラ（先住民族団体など）支援と中南米の情報発信を主な活動としています。毎号最新情報満載の会報誌「そんりさ」は年 6 回発行です。
連絡先：〒781-1611 高知県吾川郡仁淀川町岩丸 900 栗田方
Tel&Fax: 0889-34-3696（留守電有）E-mail: recom@jca.apc.org HP: <http://www.jca.apc.org/recom/>

反差別国際運動（IMADR）グアテマラプロジェクト

グアテマラのマヤ先住民族の自治・自決をめざすコミュニティベースの組織化、女性の活動、教育活動などを支援しています。また、先住民族に関わるさまざまな問題についてセミナーや学習会を開催し、出版活動などを通じて情報発信しています。
連絡先：〒106-0032 東京都港区六本木 3-5-11 Tel:03-3586-7447 Fax:03-3586-7462
電子メール：imadris@imadr.org HP: <http://www.imadr.org/japan/index.html>（サイトのリニューアル中のため、これまでの活動については、<http://www.imadr.org/old/japan/project/guatemala.html>へ）